

タッチパネル積極投資

タッチパネル関連事業を強化する主な企業

住友化学	韓国でタブレット向けタッチパネル生産開始。投資額は約54億円
日本ゼオン	福井県に光反射防止フィルム工場を新設。全体の生産能力1.6倍に
旭硝子	兵庫県に表面保護ガラス加工設備を新設
グンゼ	透明導電フィルムを14年度に2倍に増産
日東電工	透明導電フィルムを13年度に2倍に増産
日立化成	生産効率が高い透明導電フィルムを開発。13年10月に量産化
日本写真印刷	石川県にタッチパネル生産設備を新設。全体の生産能力1.5倍に
FUK (奈良県御所市)	タッチパネルと液晶パネルの接着装置を増産

素材各社はスマートフォン(スマホ)などで使われる液晶向けタッチパネル事業を強化する。住友化学は年内に韓国でタブレット(多機能携帯端末)向けの生産を開始。グンゼと日東電工は主要部材の生産能力を現在の2倍に引き上げる。表示画面を指で触れて操作するタッチパネルは今後も高成長が見込めるため積極投資に踏み切る。

▼住友化学

韓国でタブレット向け

レットのタッチパネル向けに切り替える。投資額は約54億円。サムスン電子向けに出荷し、生産能力は年数百万台規模。工場では約320億円を投じスマホ向けの生産能力を3倍にする計画を決めていたが、タブレット向けも追加投資する。日本写真印刷は7月に石川県加賀市の工場を生産を始める。同工場の生産能力を最終的に月産100万枚(4枚換算)程度にする。既存工場と合わせた全体の能力は現在の5割増の同3200万枚になる。

▼グンゼ・日東電工

主要部材、生産能力2倍

タッチパネルの主要部材でも増産の動きが相次ぐ。日本ゼオンは福井県敦賀市にタッチパネル部材の光反射防止フィルム工場を新設し、全体の生産能力を現在の1.6倍の年2500万平方メートルに高める。顧客の引き合いが強いため、14年3月と想定した稼働時期を前倒す可能性もある。グンゼは10億円を投じ、タッチパネルの主要部材である透明導電フィルム生産工場の能力を高める。13年度に1割増の月33万枚(13.3枚換算)まで引き上げ、14年度には現在の2倍の月60万枚まで増やす。日東電工も13年度中に透明導電フィ

▼タッチパネル 指先や専用ペンで画面をなぞり、直感的に操作できる装置。ディスプレイ部分に指などの動きを感知するセンサーを作り込み、

コンピュターに信号を伝える仕組み。触れた部分の電圧変化を測定する「抵抗膜方式」や、指から伝わる電流を感知する「静電容量方式」が主流。

ルムの生産能力を2倍に引き上げる。

調査会社の富士経済(東京・中央)によると、12年のタッチパネルの世界市場は前年比1.5倍の5265億円で、17年には8853億円に増える。米マイクロソフトの新しい基本ソフト(OS)「ウィンドウズ8」の発売でノートパソコンでも普及するため需要増が続き、日本の素材企業にとって重要な収益製品になっている。